

黒部の「第九」

～～歩んできた道～～

島倉敏夫 2018年4月1日

富山県内で第九コンサートは富山の年末第九が回数と規模で群を抜いていますが他では高岡、射水、小矢部、魚津、黒部、入善で開催され、黒部が回数を重ねています。それで黒部における「第九」が始まった経緯とその後の活動を振り返って見たいと思い、筆をとりました。



第1回名水の里第九コンサート 1993年5月30日 YKK体育館

黒部の第九コンサートは1993年に始まり、今回で13回目となります。初回はコーラの完成2年前にYKK体育館で、ピアノ10台ピアニスト20人の連弾で第4楽章のみという異色の形で実行されました。地域活性化と文化発信を旗じるしにはじまり四半世紀経ちました。この間に新幹線開業が首都圏を近くして社会環境は大きく変わり、心の潤いとゆとりが一層求められるようになりました。黒部市の国際文化センター「コーラ」はいま市民の文化活動の拠点として大いに活用されていて第九コンサートの練習・演奏の拠点でもあります。

そのコーラがオープンする4年前の1991年秋、市内の有志数名が東京へ行きました。1986年にオープンしたサントリーホールを見学視察しマーラーの音楽を聴くためです。ガリー・ベルティエ二指揮でケルン放送管弦楽団の奏でるマーラー第一と第四は格別の音楽でした。終演後グループは全日空ホテルレストランで奇跡的にソリスト白井光子さんに会い、立ち話でしたがしばらく懇談する機会を得て名演の余韻を楽しんだことを思い出します。この東京文化探検旅行が黒部第九のすべての始まりでした。

その興奮さめやらぬ帰りの車中、黒部で第九コンサートができないものかという話題が出ました。グループ内でも黒部では団員も聴衆も集まらないだろうという派と、やればできる派に分かれました。富山で盛んにやっているのに黒部でできないことはない。コーラが完成したらそこを拠点に第九の歌声を響かせようという意見が多くを占め、その翌1992年年6月に「黒部第九を歌う会」が発足し今日に至った次第です。

以下の文章は2007年に北日本新聞に掲載された文章です。原文のまま再録します。

まるごと黒部 山河の恵み

“黒部の第九”



第九の感動

平成18(2006)年12月17日午後4時、黒部市国際文化センター「コラーレ」カーターホールが沸いた。ベートーベン第九の演奏が終わった。聴衆の拍手がなりやまない。ステージ上の合唱団員も経験したことのない興奮の渦の中にしばしときを忘れていた。われにかえると聴衆の顔が見えてくる。よかったぞ、という顔々。感激を超えて強い感動に震える、という心の反応が舞台と客席の間を何度も行き来した。生涯忘れることのできない情景だった。

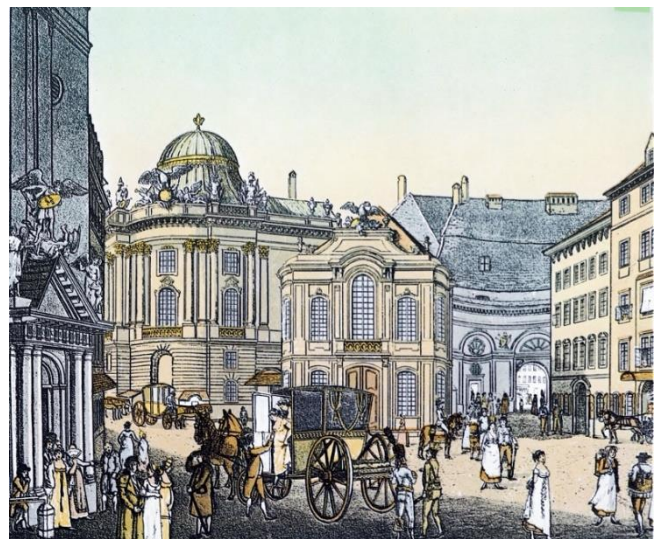
なぜ黒部で第九

「黒部には文化がない」と書かれたことがあった。これに発奮して自分達の手で何かできないかと「ホットフィールド」を実行していた若手グループと話し合った。ちょうどその頃国内で文化ホール建設がブームだった。黒部市も構想を温めていた。音楽愛好グループは音響効果がすばらしい、座席数1千以上、近隣にないパイプオルガンをほしいなど、すきな意見を出し始めた。有志がサントリーホール見学に出かけたりした。しかし建設構想検討が始まると様子が変わった。

市民が何をしたいのか、具体的に活動を始めなければ希望は採用されないという。世に多いハコモノづくり——とにかく建設して使い方は後から考える——とは全然違う。「市民と一緒に文化をつくる」という発想。東京視察組は定期的にクラシック音楽会をやるようにしたいと考えた。でも有名音楽家を呼んで演奏会を開くだけでは狙いに合わない。市民と一緒に参加してつくる音楽イベントはないか。富山市では当時すでに年末恒例になっていた「第九」をこの黒部でもやれないか？富山は500人の大合唱団。小さくてもよい、黒部らしい「第九」をやろうということになった。黒部の「第九」はこのようにして始まった。初回は平成5年5月、コラーレ完成2年前だった。

コンサート実績

初回と2回目をYKK体育館で開催。初回はオーケストラのない10台20人のピアノ連弾の第九だった。こんな例はほかにはないのでないか？無謀といえは無謀だった。しかし皆新装なるホールでの演奏を夢見て頑張った。人は何か目標がないと努力の継続は難しいものだ実感する。新ホールは平成7年11月オープン。記念第九コンサートは



ウィーンのブルク劇場(当時の版画)。ベートーベンは、この劇場で、24歳の春に、ウィーンへの演奏家としてデビューを飾り、また29歳の春には「交響曲第1番」を自らの指揮で初演して、交響曲作家としての第一歩を踏み出してもいる。

翌8年1月に開かれた。そしてこれまで14年間に8回（プラス海外1回）を重ねた。黒部第九のもう一つの特徴は“国際”と銘打っていること。姉妹都市メーコンとスネークから指揮者や合唱団員を招いた。団員はホームステイをするなど交流をしている。平成15年（2003）3月には懸案だった米国メーコン市での第九も成功裡に実行でき国際友好交流にささやかな貢献ができたことは類愛（人は皆兄弟になろう）を歌い上げる。当時の情景は今も記憶に鮮やかで、眼がうるむ。

継続への悩み——中断の危機

しかし、ここまで来るにも紆余曲折があった。演奏会は回を重ねたが、補助金収入が徐々に減り、東京からプロのオーケストラを呼ぶ予算が組めなくなった。企業や有志の支援金も集めにくい。団員の負担金増加とともに練習のマンネリ化がすすむ。練習参加率が下がり、本番近くになってやっと顔がそろろうという状態が続いた。アマチュア合唱団といえども入場料をいただいで演奏するのだから惰性のような状況で聴衆からよい反応は期待できない。入場者数も漸減。そして昨年12月の第8回コンサートを迎えた。この回で黒部の第九は最後になるかもしれないと心ひそかに観念していた。



ウィーンのベートーベン記念館。メルケルバスタイの高台にあるこの家はベートーベンのお気に入りの家で、34歳から45歳の間に何度も住み、「運命交響曲」や「コリオラン序曲」など、多くの名曲を書いた家である。

起死回生の場面

オーケストラは恒例になった富山シティフィル。指揮者は紹介を得た横島勝人氏。合唱団員は指揮者の力強いタクトに引かれ、目を覚ました。というより眼をぐっと開き頭をシャープに整理して心を開いた。そうしたら指揮者の言葉が心に響く。歌う団員達の心に音楽が染み入る。アマチュアの私たちにとってベートーベンの音楽の真髄を理解するには程遠いかもしれない。しかし、本番では歌う感激とともに聴衆と感動を共有できることを再発見した。この経験は簡単に得られるものではない。私達は14年間の苦労が一挙に花開いたように感じた。

横島勝人氏からは、「今回の黒部第九は地方のアマチュア合唱団としては最高に近い出来栄えだった。これ以上よいレベルの第九を演奏することは並大抵の努力では出来ない。更なる進歩を望むなら一度第九以外の曲にチャレンジしてみることをお勧めしたい。」というお話を得た。岩井理花さんもその通りだと賛意を表された。それにはモーツァルトのレクイエムがよいのでないか、とのこと。K626の番号が示すとおり、モーツァルト最晩年、絶筆の曲。モーツァルトの作品中もっとも崇高な美しさに満ち溢れた傑作とのこと。第九の会が第九以外を歌うことに異論はあるかもしれないが、会の発展と、地域の文化活動活性化と、そして何よりも団員自らの技量を高めたいという意欲の発露になるなら、「モツレク」にチャレンジすることはすばらしいことではないかと思った。「挑戦するかどうかを決めるのは皆さんです。聴衆と共に嵐のような感動を分かち合うコンサートにできるかどうかは皆さんの努力です。」と団員に語りかけた。

新たな挑戦

これまでの第九を継続することさえ容易でないのに新しい大曲に挑戦など無謀でないか、悩んだ。しかし多くの団員は挑戦しようという熱意でまとまった。私達は明年（平成20年）12月“モツレク”コンサート実行に向けて7月1日結団式をあげ1年半長丁場の練習をスタートし、新たな目標に向かって挑戦を始めたところである。黒部の山河野海はそこに生きるわれわれに試練も与えるが同時に力強い勇気も与えてくれると実感している。

島倉 敏夫（2007/10/1）

黒部の第九のいま

前ページまででわたしたちの第九コンサートが歩んできた道をご理解いただけたと思いますが、2007年以後はどうだったのか？ それは今(第13)回のコンサートプログラム11ページに“名水の里コンサートのあゆみ”として記載のとおり、横島勝人先生に継続して指揮をさせていただいてモーツァルトのレクイエムを2回、第九を2回、演奏して来ました。道は決して平坦ではなく、練習にも苦労は多くありましたけれども横島先生のち緻密な熱のこもったご指導のもとに、第九とモツレクとが合唱練習に相乗効果をもたらし、コンサート毎に来場のお客様と大きな感動を共にすることができました。



とりわけ今(第13)回は会設立半世紀、新たな挑戦と題してブラームスのドイツ・レクイエム7曲から3曲をお披露目演奏しましたが、全員の迫力ある第九合唱は聴衆に大きな感動をあたえ、驚きと称賛の声を数多くいただいたこと、国内でトップの座で大活躍されているソリスト4方のまことにうつくしい歌唱とハーモニーに聴衆一同が酔いしれたこと、決して忘れることのできない、そしてあらたな四半世紀のスタートを彩る歴史的コンサートだったと信じます。

さあ、合唱団の皆さん、あらたな道をふみだしましょう。次回のドイツ・レクイエム全曲演奏にむかって練習は簡単ではないでしょうが、目標を高くかかげて前に進みましょう。